

【作物】

1 早期水稲の管理

- (1) 中干し：6月上旬頃(出穂35～40日前)から、必要茎数(約18～20本)/株が確保され次第、足跡が軽くつく程度に行います。中干しの目安は約7～10日間で、圃場により土の乾き具合が異なるため、土壌条件に応じて連続または間断での中干しをして下さい。
- (2) 追肥：根の活力を高めるため、出穂40日前頃にPKミックスを20kg/10a施用して下さい。

2 普通期水稲の管理

- (1) 品質向上対策  
登熟期(特に9月)に平均気温26～27℃以上の高温になると、腹白粒・乳白粒など白濁した玄米(白未熟粒)が発生して品質が低下します。対策として、田植時期は6月中旬以降として、無理な早植えは避け、株間22cm以上(45～50株/坪)の植え付けとし、日当たり・風通しを良くして下さい。また、にこまるは、田植時期を6月1日～15日頃までとし、あまり遅植えにならないようにして下さい。栽植密度は過度の疎植にした場合は青未熟の発生割合が多くなりますので50株/坪程度として下さい。  
なお、さといも・やまのいもなど野菜作付後では基肥量を減らして下さい。
- (2) 病害虫防除  
「フルターボ箱粒剤」を1箱当たり50g施用(移植当日)して下さい。  
いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、ウンカ類、コブノメイガの総合防除剤です。
- (3) 水田雑草防除(除草剤散布)

農薬名	使用時期	使用量/10a	使用回数
コメットジャンボ	移植後5日～ルエ2.5葉期	30g/10個	1回
イッボンDフロアブル	移植時・移植直後～ルエ2.5葉期	500ml	1回
カチボン1粒剤51	移植時・移植直後～ルエ2.5葉期	1kg	1回
銀河1粒剤	移植時・移植直後～ルエ3葉期	1kg	1回
クサトック粒剤	移植時・移植直後～ルエ2葉期	3kg	1回
ガンガン豆つぶ250	移植後3日～ルエ2.5葉期	250g	1回

【使用上の注意】

- ア 高低差がないよう均平に耕起・代かきし、丁寧に畔塗りして漏水防止に努めましょう。  
イ 除草剤散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにしましょう。  
ウ 除草剤散布後7日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい(田面が露出し、入水が必要な場合はゆるやかに入水しましょう)。  
エ 藻類の発生が多い場合は、薬剤の拡散が妨げられるので、ジャンボ・フロアブル・豆つぶ剤は注意しましょう。

<山橋>

【野菜】

1 さといも

- (1) 病害防除  
疫病対策のために、次のことに注意して防除をお願いします。  
・梅雨期の防除を重点的に行ってください。  
・25℃以上の高温と長時間の降雨条件で、急激に被害が拡大します。  
・ジーフインを予防散布し、初発を確認したら発病葉を早期除去し、アミスターを散布します。

薬剤名	作物名	病害名	希釈倍率	使用時期/回数	特徴
ジーフイン水和剤	さといも	疫病	1,000倍	収穫前日まで/—	予防効果。 水中に沈みやすく、少量の水で希釈すると発効するので溶かし方に注意する。 高温多湿時葉害を生じる場合がある。
アミスター20フロアブル	さといも	疫病	2,000倍	収穫14日前まで/3回	予防・治療効果。 浸透移行性がある。 他の殺虫剤との混用が避ける。 適用すると耐性菌が発生しやすい。 高温多湿時葉害を生じる場合がある。

注意：展着剤は、さといもは散布した液が付着しにくいいためまくびか5,000～10,000倍を加用する。なお、高温・多湿など葉害の生じやすい気象条件の場合10,000倍で使用する。

(2) 全期マルチ栽培

- ア 土入れ  
子芋・孫芋の肥大促進と出荷できない芋を少なくするため、子芋着生時期(地上部が本葉4～5枚)までに、管理機により土入れ(マルチ上に土を乗せる)を実施して下さい。

イ 害虫防除

- ハダニの発生時は、サンマイトフロアブル1,000倍又はコロマイト乳剤1,000倍で防除して下さい。

(3) マルチ栽培

- ア おおなか  
孫芋着生時期に、おおなか作業を行ってください。目安は、マルチ栽培では5月下旬～6月中旬頃、露地栽培では6月上～下旬です。

イ 追肥

- おおなか一発体系は里芋用SRコート(120kg/10a)、化成体系はMB粒状固形を80kg/10a施用して下さい。

ウ 害虫対策

- コガネムシ類幼虫対策として、おおなか時にオンコル粒剤5を9kg/10a施用して下さい。

- ハダニ発生時には薬剤散布(全期マルチ栽培と同じ)して下さい。

2 やまのいも

- 芽かき、ツルなおし  
2本以上萌芽している株は、早いうちに1本にします。芽かきをする際は芽の根元から丁寧に除去して下さい。  
また、茎葉が均一に繁茂するように、ツル直しをして下さい。

<越智>

【果樹】

1 温州みかん

着果量に応じた管理を行い、幼果の結実、果実の生育促進と次年産用結果母枝の確保により、高品質果実の安定生産に努めて下さい。

- (1) 着果量が少ない樹  
養分競合による生理落果を抑制するために、着果部周辺の強い新梢の芽欠きや被さり枝を除去し、幼果とその周辺の光環境を向上させて下さい。粗摘果は中止して、仕上げ摘果や樹上選果で着果量を調整します。
- (2) 着果過多の樹  
早期の摘果で夏芽の発生を促し、樹勢維持と次年産用の結果母枝の確保を図り、隔年結果の防止に努めて下さい。  
ア 早期(一次落果終了後の6月下旬)に樹冠上部1/3を全摘果。  
イ 速やかに夏肥施用(窒素成分量5kg程度/10a)。  
ウ 発生した夏芽はミカンハモグリガの防除。

2 中晩柑類

- (1) 摘果  
中晩柑類の大玉果生産には、肥大が旺盛な生育初期の摘果が効果的なことから、着果が多い樹から摘果を開始します。  
着果が多い樹は、一次落果終了後から摘果を始め、粗摘果は概ね60葉に1果残す程度とし、葉数が5～7枚の有葉果を主体に着果させます。また不知火は、7月上旬までに全摘果量の8割程度を目標に摘果します。
- (2) 施肥(夏肥)、灌水  
新梢の充実、幼果の肥大促進と樹勢維持を図るために、夏肥を施用します(伊予柑、甘平、不知火等は、6月下旬に窒素成分9kg程度/10a、愛媛果試第28号は、6月上旬に窒素成分8kg程度/10a)。  
また、土壌が乾燥する場合は、灌水を実施して肥料養分の吸収を促して下さい。

3 病害虫防除

- かいよう病と黒点病の感染に注意し、薬剤散布を徹底して下さい。  
また、カイガラムシ、カミキリムシ、ハダニ・サビダニも防除して下さい。  
・かいよう病：6月中下旬。ICボルドー66D200倍(高温時散布は葉害を生じることがある、夏季マシン油散布14日前までに散布)。  
・黒点病：落果後の第1回散布後、200～250mmの累積降雨または30日以内に2回目。ジマンダイセン水和剤600倍。

<本田>

【花き・花木】

1 アネモネ、ランキキュラスの掘り上げ

掘り上げ適期は摘花のピークから40～50日後、葉が黄化し始めた頃です。若掘りは発芽率低下の要因となります。掘り上げ後は、日陰で十分乾燥させた後、手でもみ込み、根と土を除きます。また、乾燥機を使用する場合は、28～30℃で約40時間を基準とし、必ず一日に数回混ぜるようにします。

2 シキミ

- (1) 輪紋葉枯病  
病斑は1～2cmで赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、その後病斑上に灰白色のキノコ状～球形の小型の菌体を形成し、ひどい罹病樹は落葉します。
- (2) 黒しみ斑点病  
葉に黒いしみ状の斑点が観察されます。新葉には、はじめ針で突いたような褐点がみられ、日にかざすと周囲が薄く葉緑素が抜けたような症状が見られます。  
主に降雨時期(5～7月)にかけて胞子の飛散量が多く、感染がおこると考えられます。
- (3) シキミグンバイムシ  
葉裏に寄生して吸汁加害し、葉の表面が白いカスリ状になります。葉裏に糞や脱皮殻が付着して外観が悪くなります。4～10月まで増殖を繰り返します。
- (4) フシダニ類  
体長が0.15～0.2mm程度で、寄生し吸汁すると葉にまだら色のモザイク症状・紋々症状が発生し、黄化したり奇形葉になります。
- (5) 防除薬剤  
定期防除として6月下旬～7月上旬に、殺菌剤のベンレート水和剤2,000倍、殺虫剤のオルトラン水和剤1,000倍、ダニ剤のピラニカEW1,000倍を混用散布して下さい。  
茶園や他の作物が隣接して栽培されている場合や、ミツバチの巣箱の近くでは農薬の飛散に十分注意して下さい。

<日野>

【畜産】

梅雨に入ると気温や湿度が高くなり、暑熱ストレスによる家畜の生産性低下が多発しはじめます。夏本番に対応した畜舎の改装や飼養管理が必要です。

1 畜舎環境の整備による暑熱対策

- ① 畜舎周辺の草刈りや、舎内で通風の妨げになっている資材を取り除き、風が通るようにします。
- ② 冬場とは舎内に入る日差しが角度が変わってきます。よしずや寒冷紗等を設置して特に南と西面の日差しを防ぐ対策を行います。
- ③ 換気扇や送風機等を点検、設置して夏日(日最高気温25℃以上)、真夏日(日最高気温30℃以上)に備えます。四国中央市の最高気温が25℃を超えるのは例年6月上旬から、30℃を超えるのは7月上旬からです。

2 暑熱対策に対応した飼養管理

- ① 密飼いを避け、送風や散水等により暑熱ストレス低減を図ります。
- ② 飼料給与を朝夕の涼しい時間帯中心にし、給与回数を増やす工夫も要ります。ビタミンやミネラル等の暑さによる消耗増加分も欠乏しないように与えます。
- ③ 常に新鮮な冷水が飲めるように、配管パイプに直射日光が当たらないようにします。給水ニップルが故障してないか定期的なチェックもして下さい。
- ④ カビの発生した飼料は家畜の食欲を低減させ、採食量が激減します。良質で消化率の高い飼料を給与して下さい。

<二神>